

## 【令和4年度 関東予選結果】男子バスケットボール部

○1回戦 2022. 4.17

VS 清瀬 **80** - **60** (17-16 21-14 22-14 20-16)

相手のゾーンに対応したオフェンスのセレクションに問題があった点、インサイド陣のファウルがこんでしまった点が原因で前半は相手ペース。後半からゾーンオフェンスを実行することができ、確率の高いプレーを選択したことで点数が伸びた。しかし1試合を通してトランジション時の安易なロングパス、ヘルプの上から安易にレイアップ(タフショット)等、ターンオーバーが多く発生。初戦の緊張もあって非常にバタバタしたゲームになってしまった。

○2回戦 2022. 4.24

VS 駿台学園 **148** - **16** (41-5 37-3 43-3 27-5)

全クォーターにおいてスティール又は相手ターンオーバーによるランニングプレーでスコア。また、初戦の課題だった相手のゾーンへの対応。ノーマルなゾーンオフェンスについては実行が早かったこと、スリーポイントのタッチが全体的に良かったことに恵まれオフェンスで苦しむことが少ないゲームとなった。初戦の課題だったターンオーバーも全員が意識し、極力減らすことに成功した。

○3回戦 2022. 4.29

VS 大成 **82** - **39** (18-9 23-2 23-6 16-22)

フロントコートからのピンチングディフェンス(トラップ)で脚を動かし、トランジションからのファストブレイク・スコアでペースをつかむ。また、ゾーンオフェンスが非常に早く機能した。しかし相手のチェンジングに対するオフェンスが全く実行できず、自分たちのペース・試合運びができない時間帯が非常に長くなってしまう。ガードを中心にコート内5人の連携を深めていく必要がある。

●4回戦 2022. 5.1

VS 駒場 **50** - **69** (18-14 8-15 9-21 15-19)

出だしからセットオフェンスからのスリーやアシストで効率よくスコアした。特にペネトレイト、キック、カットのバランスが良く、得意エリアでのスペースを意図的につくるができた。前半は3点差で折り返す。しかし後半開始5分で野津田がタイムを2つとる展開に。原因は無理なスリーポイントの連発。1つ目のタイムアウト明け後も焦りからセレクションが悪く、第3クォーター開始10ポゼッション連続タフショット(スリーポイント)が不成功。その間にリングアタック1回(フリースロー)のみ。相手は確実にゲームプランを遂行し、点差が5分で一気に18点差まで離れた。一時、第4クォーター残り5分にはスリーポイントによる連続得点で10点差まで迫るも、リバウンドをとることができず引き離された。要所でセレクションが悪く、リングアタックが激減した原因は個々の判断だけでなく、脚が止まったことが原因。それは出場6名のプレータイムが非常に長く、7人目以降がゲームに絡んでこない選手層の差が大きい。その点を見直し、夏に怪我から復帰予定のインサイド(2年生)を迎え、選手層・体力面共に強化した上でIH予選に向け準備していきたい。